

(2) 令和7年度 学校評価 評価項目

静岡雙葉中学校・高等学校

教育理念
本校は、次のような人間形成をめざしています。 1. 神に生かされている人間の神秘に気づいていく 2. 「イエス・キリストの似姿」として成長していく ●自分を表現しながら、真実の自分になっていくことによって ●人とのかかわりを通して、互いに生かし合うことによって ●自分で考え、自由に決断し、その責任をとることによって 3. 地球社会の一員として、共生と連帯を生きていく
スクール・ポリシー
グラデュエーション・ポリシー 1. 深い精神性 ①一人ひとりが神に生かされているかけがえのない存在であることに気づいている。 ②ありのままの自分を受け入れ、自分自身を表すことができる。 ③共に学び、考え、助け合って相互に生かし合える関係を生きる。 ④自分で考え、自由に決断し、その責任を取れる。 2. 確かな学力 ①各教科における基本的な知識や技能を習得し、学び方を知っている。 ②知識や教養を基盤とした思考力、判断力、表現力を身に付けている。 ③人とのかかわりの中で育まれた感性と知的好奇心をもとに主体的に学ぶことができる。 ④自ら問いを立て粘り強く探究し、その学びを発信することができる。 3. 未来への志 ①心が動く出会いを通して、自分になりたい人間像を持ち、未来を切り拓こうとしている。 ②自分に与えられた能力を他者のために役立てたいと願い、自分の生き方で表そうとしている。 ③すべての人間の尊厳を守るために人権、平和、環境についての学びを深めている。 ④地球社会の一員として、現代社会の諸問題に向き合い、その改善に向けて行動を起こすことができる。
カリキュラム・ポリシー 1. キリストの教えに基づき、豊かな人間性を育む。 沈黙・祈り。本物に触れる体験。自分を表す。関わりを育てる。 2. 自己を拓く6か年一貫教育 3ブロック制。多面的・学問横断的学び。真の学力を育む。快適な学習環境。 3. 共に生きる社会を拓く、多様な体験的学び 探究的な学び。ソーシャルグッドのリーダーの育成。平和を考え、希求する学びと活動。 地球社会の一員として自らを活かす。
アドミッション・ポリシー 1. 自分自身もまわりの仲間も大切にしようとする姿勢をもつ人 2. 私らしい生き方を見出すため、静岡雙葉の6年間で自分を磨いていきたいと思う人 3. 小学校の学習内容を身につけるために努力を積み重ねてきた人 4. 「私はこれが好きです」というものを追い求め、語れるようになりたい人 5. 自ら疑問を持ち、探究する姿勢を身につけたい人

評価項目	
1	スクール・ポリシーに基づく活動 ①ホームページ、パンフレット等により、スクール・ポリシーを校外に発信する。 ②スクール・ポリシーを意識し、それに基づいて、教科、学年、分掌で教育活動を進める。
2	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事(全校ミサ、黙想会、鍊成会等)、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことなど、これまでの伝統を大切にしつつ、現在の生徒の状況に合わせて丁寧に実施し、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。
3	学習指導の充実・学力の向上 ①新しい教育課程に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③観点別評価の方法を研究し、生徒の学習意欲をより高めることに役立てる。 ④生徒個人持ちのiPadやChromebookなどの端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習や、情報を収集整理し、発信する学習活動が行われるような授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修や、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座などへの積極的参加を促す。
4	自律性、社会性及び公共心の育成（生徒指導） ①基本的生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSを利用するときの注意点を、最新情報に基づいて学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。
5	たくましく未来を切り拓く力の育成（進路指導） ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修、様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試に関する最新情報を把握し、生徒・保護者に的確な進路情報を提供する。 ③中三～高2の「コース制」の取り組みと中一、中二の総合学習の時間をまとめて振り返り、探究的な学びが6ヶ年を見通したものとなるよう、全教員が主体的に関わり、内容を更に良いものにする。
6	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定し、防災備品の更なる充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に行う。 ④防災訓練は、様々な場合を想定してより実践的のものとなるように工夫し、生徒の防災意識と危機対応能力の向上を図る。